

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0871000238		
法人名	有限会社ヘルスケア下妻		
事業所名	グループホームうらら		
所在地	下妻市石の宮24-1		
自己評価作成日	2019年4月13日	評価結果市町村受理日	2019年8月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0871000238-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2
訪問調査日	2019年6月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、家庭的な環境の中で、個人の生活リズムに合わせながら、安心した生活ができるように支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

砂沼公園が近くにあり、自然環境に恵まれた住宅街にある。毎年開催される花火大会をホームから眺めることができ、利用者の楽しみとなっている。平成14年に開設以来、地域とは密な関係がはぐくまれ、自治会に加入して総会にも出席しており、クリーン作戦やイベントにも参加している。住民からは介護や認知症の相談を受けており、アドバイスをしたり関係機関に繋げている。市主催の福祉祭りに参加し、散歩時にはゴミ拾いをする。マラソン大会で休憩所として事業所を提供するなど、地域貢献をし、地域から信頼されている。併設のデイサービスとの連携で利用者同士の交流(イベント・外出支援等)を深めている。管理者と職員は利用者が穏やかに自由な暮らしができるよう利用者一人ひとりに寄り添った支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安心・信頼・満足の理念を掲げている。毎日職員で唱和して確認しています。	法人の基本理念や方針、介護サービス心得の他、ホームの年間目標を立て、職員が常に理念に基づいた目標を確認できるよう毎日唱和している。管理者は日々のケアや職員会議等で理念に基づいたサービスが実践されているかを確認し、職員は理念を共有して実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区のイベントに参加したり清掃活動に参加したり地域交流に努めている	自治会に加入し、総会やイベント、清掃活動に参加している。納涼祭には地域の方の参加もある。散歩時に空き缶やごみ拾いを行っており、地域の方とは顔なじみとなっている。市のマラソン大会では事業所を休憩所として提供し、かき氷と飲み水を提供した。ファーム(農場)のお手伝いや歌等のボランティア来訪がある。地域の介護相談を受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学校などの体験ボランティアを受け入れたり町のイベントに参加したりして支援している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し意見交換をしながらサービス向上に活かしている、地域の方々に情報発信出来るように勧めていく	区長、家族、行政(2名)事業所担当者の参加を得て、2か月に1回開催している。事業所からは利用者の状況やイベント等を報告し、行政や家族等より意見を頂いている。家族には毎月の利用者状況説明時に報告にしている。職員には会議等で伝達し共有している。議事録は玄関に置き、いつでも閲覧できるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居状況報告や運営推進会議への参加等頂き協力関係が出来ている	介護福祉課、地域包括支援センター、社会福祉協議会とも連携を持ち、良好な関係を築いている。地域から相談があった時は関係機関に繋げている。民生委員との連携あり。小学生の町探検や中学校の体験学習を受け入れている。接遇セミナーを開催した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべてのスタッフが理解し明るい開放的なケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を立ち上げ、指針とマニュアルを作成している。ミーティングや会議の時に話し合い、全職員が身体拘束の内容と弊害を理解しており、身体拘束をしないケアに施設一丸となって取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回のミーティングを利用し利用者様の尊厳を大切に言葉使い等も気を付ける様に話合っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設でも高齢化に伴い必要性を感じ研修をしていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解が得られる様に対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の利用者様との談話の中から又ご家族の面会時に気軽に意見・要望等を伝えて頂き反映させている	利用者からは日常の問いかけや会話の中から要望を聴き、利用者の思いに添えるように支援している。職員は家族等の来訪時や電話連絡の際に意見や要望を聴いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング等で意見交換をして反映させている	管理者は日頃から職員が何でも話せるようにコミュニケーションを図っている。事務をする場所が欲しいとの要望に対して、事務室兼職員の休憩室となるプレハブ小屋を設置、夜勤者の寒さ防止にストーブの購入、また、職員の希望に配慮した勤務表作成するなど、職員が働きやすい環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働き易い環境を整備しやりがいのある職場作りに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティング等で勉強会を行ったり研修会に参加する機会を作っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内の協議会等に参加し意見交換を行っている		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回相談に時間をかけ対応している、不安を取り除ける様に話をしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回相談に時間をかけ対応している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネやスタッフとも話し合い必要としている支援を見極め対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の様子を話して頂いたり、料理方法を教えて頂いたり和気藹々の関係を築いている		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況報告など密に連絡を取り合い、施設でのイベント等に参加頂いたりして共に支えあう関係を築いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族を通じ友人と面会して頂いたり、外出の機会を作り支援している	手紙や電話の支援、家族や友人の面会を大切に、馴染みの人との関係が途切れないよう、継続的な訪問が得られるように配慮している。家族と墓参りや外泊、外出に出かける利用者がいる。初詣を始めとした事業所の外出行事は、馴染みの場所に行く。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人個人の個性を把握し利用者様同士の声かけあいや支えあえる関係作りに努めている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も気軽に相談して頂いたり、来所して下さるよう支援している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中から一人一人の利用者様の思いや希望の把握に努めている	利用者の生活歴を把握すると共に、日常の関わりや会話を通じて希望や意向を聴いたり、家族等から情報を得たりして、利用者が望む暮らしを支援している。趣味の読書を支援する図書館の配本サービスの利用、編み物や折り紙、料理のアドバイス等を受け入れるなど、希望に添う支援がなされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からお話して頂いたり本人様とのコミュニケーションの中からバックグラウンドを把握し日々のケアに努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックやスタッフ間の申し送り等で状況を把握し全員が状況把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意向や本人の希望を尊重して、スタッフでの話し合いの中から現状に即した介護計画を作成している	プラン作成にあたり、利用者・家族から要望等(遠方等の家族には電話で)を聞き、フェイスシートに基づき、担当職員が作成した原案でミーティングを実施し、計画担当者が作成している。モニタリングは3か月毎に実施し、評価に繋げている。	ケア提供者の為の課題となっているので、利用者本位のプランの立案を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や個別の経過記録を記入し全員が共有、把握し実践、介護計画の見直しに生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスを活かしての交流や遠足、外食の機会を作り対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察や消防への施設の存在報告や地域ボランティアへの参加		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	十分に話し合い、かかりつけ医への支援や信頼関係の構築に努めている	かかりつけ医への受診は、職員の付き添いとなっている。往診は4週間に一回、利用者の状態により週3回訪問が入る利用者もいる。専門医の受診は家族や職員が付き添っている。職員が受診に同行した時は家族に報告し、受診記録に残して、家族の受診介助の時は、報告を聞き受診記録に記し、家族・職員で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	関わりの中で気づいた事を職場内の看護師に相談したりして対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院までの経過報告を初め情報交換をしながら病院との信頼関係の構築に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	スタッフ間でも日々の状態把握に努め、ご家族とも十分に話し合い対応する様に努めている	家族には、重度化した場合の対応に関わる指針を説明し、同意書をもらう。家族の希望があり、現在1名の看取りを行っている。医師・看護師の指導のもと、家族とも十分に話し合いを行い、利用者の状態に応じたケアについてミーティングで話し合っ、家族の協力を得ながら統一したケアに取り組まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングの中での勉強会や救急救命の講習を受講したりしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの避難訓練の実施や夜間を想定しての避難訓練等を実施している	年2回、消防署と協力して防災避難訓練を行っている。避難訓練は失火元を決めて避難経路を確保する訓練や夜間想定訓練など行われている。身体の不自由な方に対する支援方法を職員で再検討。自然災害・車両事故マニュアルを整備し、近隣住民にも協力を依頼している。備蓄品・緊急持し用品は定期的に点検している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重しプライバシーを損ねない様に努めている	職員は利用者を人生の先輩として敬い、丁寧に話しかける等、一人ひとりの人格を尊重した対応をしている。トイレ介助や入浴時には、誇りやプライバシーを損ねないケアを心掛けている。(着脱・入浴は、一人ずつの対応) 情報開示に関する同意書は肖像権を含め取り交わしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様から気軽に自分の思いを伝えて頂ける様にコミュニケーションを取り働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のライフスタイルを大切に出来る限り希望にそって支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪したり、積極的に自分で衣服など選べる様に支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のある食事や好みの料理などを工夫しながら自家栽培で採れた野菜などを利用し準備や調理など出来ることを共にしている	毎日の食事は利用者の希望を取り入れ、買い出し・下準備・配膳・下膳・食器拭きなどを利用者と一緒に行っている。ファーム(農園)の野菜を四季を通じて収穫しており、職員が季節に合った献立を立てている。職員は利用者と一緒に会話しながら食事を摂っていた。誕生日には利用者の好物・ケーキを提供している。クッキー・蒸しパン・白玉団子・バナナジュースなどのおやつ作りをしている。本人の希望により、居室で食事を摂る方がいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取状況を把握し支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	健康状態に応じた方法で行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状況を記録し、排泄パターンを把握し支援している	排泄チェック表により利用者の排泄パターンを把握し、さりげなく声をかけたり、利用者の様子から声をかけ、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。適切な声かけ・誘導により、オムツ、リハパンからパットや布パンツと改善された方がいる。運動・食事・水分等で自然排便に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	規則的な生活を送り排便習慣が確立できるように支援する		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間を問わず入浴が楽しめる様に体制を整え支援している	2日に1回、午後の入浴となっているが失禁時や要望があれば入浴可能である。入浴を拒む利用者には無理強いせず、職員や時間帯を変えて声かけするなどの工夫をし入浴が出来るように支援をしている。柚子湯や入浴剤を使用したりして入浴が楽しめるようにしている。巻き爪は、看護師が対応。感染予防に注意して足拭きマットは消毒している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のライフスタイルを尊重し安心して休息睡眠できる様に努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ミーティングを利用し副作用や用法などを把握し状態観察をしながら支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	集団生活の中での楽しみや役割をみいだせるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の状態や希望を確認し外出の機会が取れる様に努めている	天気の良い日には施設そばの砂沼の遊歩道を散歩している。四季折々の外出イベント(初詣、桜・菖蒲・ポピー等の花見、ビアスパークのレストラン・果物狩り、相撲部屋・小貝川このぼり見学)等にサービス利用者と一緒に外出する機会を設けており、季節を感じて頂いている。外出できない利用者には、出前を提供するなどの配慮がなされている。買い物等の個人的対応も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則的にはスタッフが管理しているが、希望に応じて使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話等いつでもやり取り出来る様に支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	どこでも休息出来る様な空間を作り生活感や季節感を取り入れた居心地の良い空間作りに努めている	玄関ホール・廊下にソファや椅子がに置かれており、利用者が自由にゆったりとくつろげる場所となっている。折り紙で作った花や手作りの日めくりカレンダー等が飾れ明るい雰囲気 of 清潔なホールとなっていた。七夕飾りで、短冊に願い事を書いているとの話しがあつた。トイレはわかりやすく表示されていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やリビング等自由に過ごせる空間作りに努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた馴染みの物などを配置し居心地の良い空間作りに努めている	居室入り口には利用者の目の高さに名前が掲示され、のぞき窓にはプライバシー保護の為、カーテンがつけられている。テレビ、ラジオ、ダンス、衣装ケース、テーブル、椅子、手芸品、ぬいぐるみなど、壁には行事等の写真や家族写真、誕生日に贈られた色紙や感謝状(老人クラブ)等が飾られ、その方の部屋として演出されていた。家具の配置も動線を妨げないように考慮されていた。居室に洗面所・トイレが設置、清潔な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の配置やトイレ、廊下等の手すりなど安全に出来る限り自立した生活が送れるように工夫している		